

[特集]

五 語 る

犬島発

—現代演劇の新潮流—

脚本家、演出家 維新派主宰

演出家

松本雄吉 × 村川拓也 × 大森誠一

創立25周年記念事業・総合ディレクター

犬島発

— 現代演劇の新潮流 —

流れを語る

犬島の地域資源がつなぐ
日常とアート、
そして離島と世界

演出家

村川拓也



Photo by ; Daisuke Aochi

福武教育文化振興財団では、ことし創立二十五周年を迎えるのを機に、「犬島海の劇場」をメインテーマに掲げ、今年度から二カ年にわたる記念事業を展開しているところ。その一環として、この秋には犬島を舞台に維新派の新作『風景画』と、移動演劇・宮本常一への旅『地球四周分の歌』の二作品の公演を予定しています。

六月二十四日、pieni:deux(岡山市内)において、維新派主宰で演出家の松本雄吉氏と注目の若手演出家・村川拓也氏を迎えて、現代演劇の新しい流れを語っていただく機会を設けました。

両演出家の作品は、九月から開催される日本最大の国際舞台芸術フェスティバル「フェスティバルトーキョー(F/T)」に参加することが決定しており、特に維新派はこの五月にシンガポール公演を終えたばかりでもあり、今日日本で最もホットな演出家の話は興味深いものになりました。以下二人の演出家の想いをまとめてみました。(進行役は創立二十五周年記念事業総合ディレクター・大森誠一氏)

脚本家、演出家 維新派主宰

松本雄吉



創立25周年記念事業・総合ディレクター
NPO法人アートファーム代表理事

大森誠一



大森；この秋、犬島でふたつの注目されている演劇が開催される。維新派の野外劇は、これまで巨大な劇場を構築して行われていた。今回、松本さんは、まったく新しい視点で作品をつくられると伺っているが……。

松本；犬島には、ちょうど幼稚園の運動場ぐらいの

本さんと近い感覚だと思う。

しかし、今回のチラシの文章に「犬島は風景ではなく場所である」と書いたので、やばい、これは松本さんに怒られると……(笑)

僕は、風景になる前に場所が存在すると思っていて、目でとらえられることは、それ以下でもそれ以上でも



大きさの扇型をしている小さな入り江があって、干潮時には一面の干潟が現れる。感覚的にしか言えないが、それがすごくよくて。そこを会場に決めた。干潟は、月の引力によって潮の満ち引きがおこり、一日2回現れる。それは、大きく言えば、宇宙原理を足元で体験できる場所。宇宙の中に住んでいるすごさを日常的に体験できる場所であることを発見した。これは大発見といえる。

犬島の「精錬所」が常にそこにある風景ならば、恵まれた時にしか出会えない干潟は、偶然性の産物。発見する喜びを、見る側の主体性にゆだねられる風景であることに気づいた。同時にこの場所は、野外劇をしている僕らに、何か啓示を与えているのではないかと感じた。

シェークスピアなどを持ち込むのではなく、その場所が喚起するような演劇をしたいと考えている。物語やストーリーを観客に押し付けるのではなく、観客とパフォーマーが同時に、その場所を考えられるような……。空間的にも時間的にも余白を持ちたい。観客とパフォーマーが余白を持ちつつ、ひとつの風景に向き合う劇。そうした新しい形のパフォーマンスの始まりにしたいと思っている。

村川；僕も犬島で、持ち込みのフィクションをたちあげるのには違和感があるので、場所を感じるそこからスタートしたいと思っていた。そのあたりは、松

ないというとらえ方をまず、したいと思っている。犬島の風景は、人をノスタルジックにさせると思うけれど、僕が最初に行った犬島の印象はどちらかというと現実的で、ノスタルジックという言葉だけでは片づけられなく、全てが見えてくる感覚だった。

松本；昨年の犬島公演は、野外劇といいながら野外の風景を劇場化している演劇であったように思う。これからもその方向性は残すが、あくまでも風景とは自分よりも外側にあって、自分の内側とは分けて考えることを重視したい。今回は、どちらかという後者の方向性だといえる。

村川君が判りやすく言ってくれた「そこにあるものは、それ以下でもそれ以上でもない」それは真実だと思う。僕らは世界(風景)をどうみているかという、質量や重量をそれ以上にしてみたり、それ以下にしている。存在そのものに対して、都合のいいように見ている面がある。

一度、それを断ち切って、風景は手に負えないことではなく、自分の内側を磨くという立脚を再認識することなのかなと思う。

大森；ところで、村川さんの作品では、船に乗るところから演劇が始まる……。

村川；さきほど述べたように犬島を場所として、それ以上でもそれ以下でもないということを観客にきっちり意識させたい。

松本 —— **宇宙の中に住んでいるすごさを日常的に体験できる場所であることを発見した。**

村川 —— **それ以下でもそれ以上でもないとらえ方をまずしたい。**

その為に、宝伝港から船に乗って 10 分かけて犬島に行き、また帰って来る。島に近付いていますよ、島から離れていっていますよ、という体験をしっかり認識させる仕組みをつくっていききたい。

また犬島に渡って、目に見えているものとは別に、宮本常一のテキストが放送塔から流れてくる。観客は目と耳を使い自分のなかで組み立ててもらえるような劇にしていきたい。

松本；時間的にはどれくらい？

村川；だいたい 1 時間ちょっと。時間がきたら終演・・・。

松本；覚悟の 1 時間だね（笑）。最大公約数的には、島内放送が聞こえるという感じかな。宮本常一のくだりは？

村川；ラジオドラマみたいにしようかと。島内放送のスピーカーから、録音した宮本常一の世界を流す。島には、ポイントポイントに俳優がいて、観客は自由に僕の作ったものを観てもいい、観なくてもいい。ひとつの場所にずっと居てくれなくてもいい。

観客以外の島に住んでいる人にも楽しんで観てもらえたらいいなと思っている。

松本；あの島に島内放送はいいね。ラジオドラマが

聞こえているような感じで、宮本常一の世界が聞こえて、その中で畑仕事をしている島の人がいるとか？すごく興味深いね。

宮本常一が舞台上で語られるよりも、島のスピーカーから聞こえてくるというのが、リアリティがあるね。的を射ているな。演劇ではあるけれど、日常的であっても不思議ではないと感じるような。演劇を観た人に聞いてみたいね。

大森；『風景画』の作品には、人物の固有性とかモチーフとかは？

松本；あけぼの丸の船長に体験記を聞いて、それ

を俳優に語らすとか。島の人たちに聞き取りをして、それを置いてみたい感じがする。抽象的な表現になるけど、言葉をオブジェ的にしてみたい。俳優が演技する言葉は、オブジェではなくて心の転換の道具になる。その点、村川くんがやろうとしている、`スピーカーから出る声`はオブ

ジェ性があると思う。

舞台上で俳優がうまく会話をするとするのは、野外で芝居をするときには違う感じがして・・・。野外では、心情的な言葉とか、心理的な言葉は、圧倒的な風景に負けてしまうのではないかな。じゃ、野外の風景の中では、どんな言葉が有効的なのかを考えたとき、オブジェ的に置いていくという新しい演劇の在り方が自ずと要求される。そのあたりが野外でやる意義でもあるのかなと。

大森；音響は？

松本；いつもみたいな大きな音響はやめて、小さいスピーカーを点在させて東西南北感がよくわかるようにしようかと。スピーカー自体もオブジェ的に。劇場では大きなスピーカーって神様みたいな魔術師的な存在だけど、小さなスピーカーが一生懸命に音を出している、人間的な

感じにしたいなと。

大森；夜の舞台が多い松本さんが、今回は昼間の演劇にした意図は？

松本；一つには、自然の摂理に任せたので、昼間ということ。9 月 23 日は干潮が 12 時 39 分。それ以外は、12 時間後なので夜中になってしまう。もう一つは、維新派は、白塗りで演技をするのだけど、照明の世界でいうと白塗りってすごく劇場的だね。また、方法論的に限られてもいる。その白塗りを風景の中に放り出して、その違和感からもう一度白塗りを考え直してみたい。自然光の中の白塗りは、異

常に白くみえたり、観客にとってもあり得ないことで、それが何か結界を作り、そこで観客一人ひとりが想起する劇場ができるという面白さがある。

大森；また、客席もつくらないとか・・・

松本；それは、村川君こそ（笑）。村川君自身が客かどうかもわからない、知らない間に出演者になっている可能性もあるわけだ。

村川；観客同士が見るっていうのもある。

大森；移動演劇というのは、常に舞台が動いているという・・・。

村川；お客さんには地図を渡し、それを見ながら移動してもらったり、留まっている場所を作ったり・・・

松本；演劇ばい場所を作る？濃淡がある感じかな。演劇をしている場所、パフォーマンスしている場所、日常の場所・・・

村川；犬島公演をやっている場所があっという間か。ピラを配っている人がいて、小さな犬島演劇場があっという間に公演をしているような。

大森；『風景画』は、劇場のひとつ・・・。

松本；中の谷は、地形そのものが昔の劇場になっている。コロシウムのような形でまわりから干潟の底

を見降せる劇場の形になっている。観客には道路に段ボールか座布団を敷いて観てもらってもいい。途中で場所を移動して観てもいい。

形状は劇場を喚起する場所だけど、撮影も OK にして、撮影のために俳優がポーズをとったりするとか・・・というゆるい感じにして、逆説的なところを観客が遊んでくれたらいいなと。

大森；役者は、干潟でずっと演じている？

松本；先日、役者を連れて犬島に行き、干潟に立たせてみたら、足首の上まで沈むので稽古していた複雑なステップがまったく無駄になった。足元のド

ロがどんどん沈んでいくので、役者は重力を感じるなんて言っている。

だから、動けないから、動かないを積極的なテーマにしようかと思っている。

大森；最後に今秋、松本さんも村川さんも先駆的な国際舞台芸術祭のフェスティバルトーキョーに参加と聞いているが・・・。

松本；犬島は、干底(干潟)でするので、東京では池袋の西武デパートの屋上ですることに決めた。沈んだ状態と浮いた状態、どちらも、日常ではあまり人が行かない所。ただ、屋上には泥がないので犬島の干潟での作品をそのままスライドはできないね。

村川；僕は公募プログラムのコンペに参加して、8 作品の 1 つに選ばれた。犬島の作品をもっていきたいと思っていたけれども、東京では場所選びが難しく、結局、シアターグリーン（池袋）での舞台に決めた。

大森；演劇は東京で創られた作品を地方が享受するという歴史が長く続いてきた。しかし近年、その流れが逆転する活動が各地から生まれている。この「犬島海の劇場」でも、瀬戸内海の離島で創られ

た作品や関わった作家を、東京という市場（消費地）に発信していくことを理想としている。言い換えれば、地方から日本の現代演劇を主導していく新しい力や流れを創り出していく試みでもある。

この対談の内容は、[youtube にて公開中。](https://www.youtube.com/user/artfarmVideo?feature=mhee#p/ufest)
www.youtube.com/user/artfarmVideo?feature=mhee#p/ufest
www.bh-project.jp/festival/jpn/event/data/festival_tokyo2011
[犬島海の劇場 HP \(イベントの詳細はこちらでご確認ください\)](http://www.artfarm.or.jp/25th/)
www.artfarm.or.jp/25th/

松本雄吉

Yukichi Matsumoto



脚本家、演出家。1946年熊本県大草生まれ。大阪教育大学で美術を専攻。1970年維新派を結成。1974年以降のすべての作品で脚本、演出を手がける。1991年東京・汐留コンテナヤードでの巨大野外公演「年街」より独自のスタイル「チャンチャン☆オペラ」を確立。野外劇にこだわり、2001年奈良県室生村の野球グラウンドで上演した「さかしま」をはじめ、琵琶湖の水上舞台で度肝を抜いた「呼吸機械」。昨年の瀬戸内国際芸術祭の開幕を約四千本の丸太による野外劇場で飾った「台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき」など次々と話題作をつくりだしてきた。

受賞作品としては2002年「カンカラ」が朝日舞台芸術賞受賞。2004年「キートン」は読売演劇大賞優秀演出家賞受賞。2008年「呼吸機械」は朝日舞台芸術賞・アーティスト賞、芸術選奨文部科学大臣賞受賞。昨年の「台湾の、灰色の牛が背のびをしたとき」も2010年ベスト舞台1位に選ばれるなど受賞歴多数。



維新派「風景画」

2011年9月23日(金・祝) 12:09 開演
 24日(土) 13:19 開演
 25日(日) 14:16 開演

移動演劇・宮本常一への旅「地球4周分の歌」

2011年10月9日(日)・10日(月・祝) 開演 14:20 (宝伝港発)⇒犬島逍遙⇒終演 16:10 (宝伝港着)

財団法人福武教育文化振興財団 助成先の活動

～文化活動助成 公開活動～

○ 福武コレクションによる国吉康雄展

開催日 平成23年7月15日(金)～8月21日(日) 9:00～17:00
 会場 岡山県立美術館 地下1F展示室
 観覧料 一般350円 大学生250円 小・中・校生無料 65歳以上170円
 助成先団体 「福武コレクションによる国吉康雄展」実行委員会
 問合せ 086-225-4800(岡山県立美術館)

○ 犬島愛(藍)の会・夏のワークショップ2011 犬島手づくり工房

開催日 平成23年7月29日(金)～31日(日) 11:00～15:00
 会場 犬島(在本商店)
 参加費 要予約(藍染め体験1,000円、立体折り紙体験500円)
 助成先団体 犬島愛(藍)の会
 問合せ 086-947-0279

○ Healing Garen in 牛窓

開催日 平成23年7月30日(土)15:00～ 31日(日)19:00～
 会場 牛窓シーサイドホール
 入場料 一般3,000円 高校生以下2,000円
 助成先団体 code`M`
 問合せ 090-2904-0089

○ 喜之助展(無料)

開催日 平成23年8月1日(月)～8月31日(水)
 会場 街角ミューゼ牛窓文化館
 助成先団体 港まち後楽会
 問合せ 086-277-5464(シマ写真事務所)

○ 祈りと励ましのダンス(仮称)湯浅永麻+ミゲル・オリベイラ

開催日 平成23年8月5日(金)～7日(日)(予定)
 会場 本行寺(岡山市)
 入場料 未定
 助成先団体 NPO法人アートファーム
 問合せ 086-233-5175

○ UNO PROT ART FILMS 宇野港芸術映画座

開催日 平成23年8月5～7日、12～14日
 会場 宇野港周辺
 入場料 一般1,000円 高校生以下無料
 助成先団体 UNO PROT ART FILMS 宇野港芸術映画座
 問合せ 080-4266-2885

○ 八柳組念仏踊り(無料)

開催日 平成23年8月7日(日)
 会場 八柳末信堂(美咲町)
 助成先団体 八柳組念仏保存会
 問合せ 0867-27-3538(内田)

○ 吉野川護岸壁画塗り替えイベント(無料)

開催日 平成23年8月13日(土)
 会場 美作市三倉田地内吉野川河川敷
 助成先団体 吉野川護岸壁画を守る会
 問合せ 0868-72-1111(美作市役所ドリームプラン推進室)

○ 第3回おかやまキッズアート展(無料)

開催日 平成23年8月18日(木)～8月21日(日)
 会場 ギャラリーすろおが
 助成先団体 おかやまキッズアート実行委員会
 問合せ 086-264-3328

○ 第27回定期演奏会

開催日 平成23年8月21日(日)
 会場 倉敷市民会館
 入場料 一般1,000円 学生500円
 助成先団体 NPO法人倉敷ジュニア・フィル・オーケストラ
 問合せ 080-3872-2119(海野)

○ 岡山交響楽団・台湾新竹青年国楽団交歓演奏会

開催日 平成23年8月28日(日)
 会場 岡山市市民会館
 入場料 一般1,200円 学生500円(予定)
 助成先団体 岡山交響楽団
 問合せ 090-1683-2604(黒木)

○ 八朔ひな飾りと「ししこま」作り

開催日 平成23年9月10日(土)～19日(月)
 会場 しおまち唐琴通り周辺(瀬戸内市牛窓)
 入場料 ししこま作り300円
 助成先団体 牛窓しおまち唐琴通りの保存と活性化プロジェクト
 問合せ 090-3055-5108(岡)

○ サンバ・ワークショップ～打楽器はおもしろい!

開催日 平成23年9月17日(土)14:00～
 会場 清音公民館(総社市)
 入場料 要申込み(無料)
 助成先団体 アンサンブルFlug
 問合せ 090-9506-0237(出井)

○ ザ・十二ヶ郷陽水ソロライブ

開催日 平成23年9月17日(土)18:30～
 会場 きび工房「結」(総社市)
 入場料 1,500円
 助成先団体 きび工房
 問合せ 0866-37-2133

○ 第8回津山国際総合音楽祭オープニングコンサート

開催日 平成23年9月17日(土)18:30～
 会場 ペルフォーレ津山
 入場料 未定
 助成先団体 津山交響楽団
 問合せ 090-6848-8995(園田)

○ 円城寺本藤天井画公開(無料)

開催日 平成23年9月17日(土)～9月25日(日)
 会場 円城寺(吉備中央町円城)
 助成先団体 円城寺天井画修復会
 問合せ 0867-34-0004

○ 平川忠士窯展

開催日 平成23年9月17日(土)～11月16日(水)
 会場 M&Y記念館(津山市)
 入場料 500円
 助成先団体 平川陶房グループ
 問合せ 0869-66-7022(平川忠陶房13時～20時)
 0868-27-3239(M&Y記念館)

○ 中村功と仲間たち パーカッションアンサンブルコンサートVol.2

開催日 平成23年9月19日(月)18:00～
 会場 ルネスホール(岡山市)
 入場料 一般3,500円(当日4,000円)高校生以下1,500円(当日2,000円)
 助成先団体 アンサンブルFlug
 問合せ 090-9506-0237(出井)

○ 牛窓ナチュラルキャンプ2011

開催日 平成23年9月23日(金)～24日(土)
 会場 牛窓オーブ園(瀬戸内市牛窓)
 入場料 未定
 助成先団体 牛窓ナチュラルキャンプ2011実行委員会
 問合せ 086-252-1331(岡山事務所)

○ 第6回美術家協会展(無料)

開催日 平成23年10月25日(火)～30日(日)
 会場 岡山県天神山文化プラザ
 助成先団体 岡山県美術家協会
 問合せ 086-237-0316(事務局)

○ おかやま物語(3部作)

開催日 平成23年10月29日(土)30日(日)
 会場 岡山シンフォニーホール(岡山市)
 入場料 有料
 助成先団体 財団法人 岡山シンフォニーホール
 問合せ 086-234-2001(ホール事務局)

○ 岡野屋旅館プロジェクト2011

開催日 平成23年10月29日(土)～11月7日(月)
 会場 岡野屋旅館(真庭市勝山)
 助成先団体 特定非営利活動法人 勝山・町並み委員会
 問合せ 0867-44-5880(勝山文化往来館ひしお)

○ アートの今・岡山(無料)

開催日 平成23年11月2日(水)～平成24年2月12日(日)
 会場 岡山県天神山文化プラザ (11月2日～13日)
 高梁市歴史美術館 (12月10日～25日)
 奈義町現代美術館 (1月7日～2月12日)
 助成先団体 アートの今・岡山展実行委員会
 問合せ 086-226-5005(岡山県天神山文化プラザ)

財団では、岡山県の教育に大きく貢献した福武哲彦氏(福武書店創業者・現ベネッセホールディングス)と、谷口澄夫氏(元兵庫教育大学学長・当財団初代理事長)の功績を顕彰し、さらに教育を推進するために福武哲彦教育賞、谷口澄夫教育奨励賞を設けています。今年度の受賞者は次のとおりです。

福武哲彦教育賞

元岡山市教育委員会 教育長

戸村彰孝氏

昭和49年から岡山県教育庁、県立高等学校長を歴任された後、平成7年からは岡山市教育委員会教育長に就任、その後私立高等学校長として私学教育にも携わり、常に将来を見据えたビジョンを持って岡山県教育の充実発展に取り組まれました。とりわけ岡山市における全国初の公立併設型中高一貫校の開校や教育体制整備等は、氏の先見性と実行力が発揮されました。

谷口澄夫教育奨励賞

前岡山市立岡山後楽館中学校 教諭

現岡山市立芳泉中学校 教諭

服部由利香氏

専門の国語科において、教科指導の研究はもとより岡山県全体の学力向上を目指す授業改革協力員として研究をすすめられました。また、道徳教育では研究指定校の主任として組織の中核を担い、体験活動をとおして豊かな心と道徳性をはぐくむ「後楽館道徳」の構築にも成果を上げられました。

岡山県立岡山操山中学校
(岡山市)

平成14年、県立学校初となる併設型中高一貫校として開校以来、教育活動全般にわたり種々の斬新な取組を展開されています。特に、これからの社会に必要なコミュニケーション能力を育成するための独自教科の開設や、高校卒業後を見通したキャリア教育の充実は着実に成果を上げられています。

総社市立総社西中学校
(総社市)

「西中の特色・長所を伸ばす指導を発展させ 生徒の自己肯定感を高める」ことを指導目標に掲げ、学校行事をとおして生徒の一体感や達成感の醸成に尽力されました。とりわけ生徒全員が声を出しきる体育会での校歌斉唱や全校合唱集会における取組は輝かしい成果を上げられています。

杉浦慶太

神様の 写真

みなさんには見えますか？

一見、真っ黒なこの写真は宵闇の中、月の光を頼りに岡山県北部にある森を撮ったものです。日本に仏教がもたらされるまで、人々にとって信仰の対象は自然そのものでした。私はまだ人間が灯をもたなかった太古の視点で森を見たいと思い、当時の彼らの素朴な信仰の核心に触れようとしたのです。

そもそも農耕に従事する者にとって、森は実りをもたらす水を提供する生活を直接左右する重要な存在でした。しかし、自然は人間の制御下をはるかに越えた存在です。そのような関係性から畏れ敬う「畏怖」という独特の考え方が生まれたのも当然だったのではないのでしょうか。3月に起きた東日本大震災は、計らずも我々にそれを改めて突きつける結果となりました。それまでメディアで叫ばれていた「自然＝良きもの」という一面的な考え方はもはや通用しません。近代化するなかで忘れられた自然に対する先人達の記憶。

いま、みなさんにはこの森がどう見えますか？

すぎうらけいた／写真家 1980年岡山県生まれ。津山市在住。2008年「GEISAI #11」銅賞、「I氏賞」大賞／2009年「Daydream」(MaxProtetch Gallery/ニューヨーク)／2010年福武文化奨励賞、「ink jet」(CASHI/東京)、「杉浦慶太展 - 農村の意匠 -」(奈義町現代美術館 / 岡山)

Editor's comments

25年前の昭和61年8月29日、当財団は「福武教育振興財団」として設立されました。福武書店の創業者 福武哲彦氏の大きな遺志を、福武總一郎氏が引き継いだものでした。

— 私は、「文化」から外れるような仕事はしたくない。…金儲けにつながらなくても、福武の質の向上になる。たとえば財団法人福武文化財団の構想などは、私のビッグドリームである。…

(昭和58年1月5日 始業式での福武哲彦氏訓示より)

平成8年には、既成文化の枠にとらわれない文化の創造を目指す「福武文化振興財団」を設立。岡山県で教育と文化の発展に寄与する2財団体制となりました。

平成19年からは、教育と文化の融合と事業の更なる高度化のために、2財団を統合して「福武教育文化振興財団」となり、現在に至っています。

— 私はよく「経済は文化の僕(しもべ)である」と呼んでいます。人々を心豊かにするのは経済活動だけではできません。…文化、すなわち「人々が幸せになれる、いいコミュニティづくり(お年寄りの笑顔があふれる社会づくり)」のために経済はあるのだと私は思います。…企業が財団を創設し、その財団がその株式会社の大株主になり、そこで得られた配当金を資金として、社会に貢献できる仕組みを作ることです。…

(平成22年8月6日 「瀬戸内国際シンポジウム2010」における福武總一郎氏スピーチより)

四半世紀の間、当財団は皆さまのご支援をいただき、岡山県の教育文化の発展に真摯に向き合う人々を応援してきました。そしてこれからも… (財団・中野)

季刊

不易

F U E K I vol.43 2011.7.25

編集・発行：

財団法人 福武教育文化振興財団

〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17
株式会社バネッセコーポレーション本社3F
TEL 086-221-5254 FAX 086-232-3190
URL <http://www.fukutake.or.jp/>
E-mail eczaidan@fukutake.or.jp

制作：
株式会社 吉備人
デザイン：
田中雄一郎(QUA DESIGN style)
印刷：
広和印刷株式会社



人づくり、地域づくりを応援します

財団法人 福武教育文化振興財団

FUKUTAKE
EDUCATION AND CULTURE
FOUNDATION